

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471903052
法人名	有限会社 Cocci
事業所名	グループホーム ちゃばしら
訪問調査日	2015年3月2日
評価確定日	2015年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 26 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903052	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	有限会社Cocci			
事業所名	グループホームちゃばしら			
所在地	(〒238-0004)			
	横須賀市坂本町5-5-18			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成27年2月15日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月29日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

従業員一人一人が利用者の身体の残存能力維持、認知症の緩和を目的とし、レクリエーションなど積極的に行っている。また、利用者の心身のリラックス、認知症の緩和とホーム内の清潔保持を目的とし、積極的にアロマセラピーを導入している。アロマを使用して毎日掃除を行っている為、施設特有のにおいが無くホーム内がいつでも快適である。気候が良い時は健康保持、体力増進の為に戸外へ散歩に出掛けている。(基本毎日)。地域との交流を積極的に図っている。開所以来職員の定着率が高い。1ユニットの小規模ホームで、利用者、職員皆で家族の様に過している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成27年3月2日	評価機関 評価決定日	平成27年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- グループホームちゃばしらは、有限会社Cocciが認知症高齢者の方々が住み慣れた地域の中で、残された能力を維持し、認知症症状緩和を目的として、運動を兼ねたレクリエーションとアロマセラピーで心身のリラックスを図りつつ、小規模を生かした家族的な環境の中で、その人に見合った自立に向けた支援を提供する事を目的に運営されているグループホームです。
- 事業所理念は「地域との交流を積極的に図り、地域に根ざしたホームで利用者の自立に向けた支援を行います」と謳い、認知症の方々が家庭的な雰囲気の下で、その人らしい自立した生き方を目指し、理念に沿った自立支援が行なわれています。
- 地の利は京浜急行汐入駅からバスにて10分、バス停「坂本」で下車し、徒歩約3分の静かな住宅街の一面に位置し、「ちゃばしら」の名に合ったグリーンの洒落た建物がホームです。
- 地域交流では、自治会に加入しており、町内会主催の日帰り旅行にも参加しています。近くの店舗での買い物を通して地域との繋がりを持ち、利用者の散歩でも日常的な交流が行われています。
- 運営推進会議は、隔月1回の開催で町の高齢福祉担当・包括支援センター職員・民生委員・家族代表・ホーム関係者の出席の下、事業所の活動と今後の計画などの報告を行い、参加者から種々提案を頂き運営に反映しています。災害時協力のお願もしています。
- 事業所ではサービスの質向上を図る取り組みとして、職員の各種介護講習や研修への参加を推奨しており、外部研修参加には時間内受講やシフトでの配慮に加え、日当・交通費の支給なども行っています。グループホーム連絡会主催の研修会にも職員が参加し、同業者から学ぶなど職員の資質向上に注力し、研修参加後は報告を行い、情報共有を図り日々の介護に活かしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームちやばしら
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を積極的に図り、地域に根ざしたホームにするという理念の下、町内会を中心に積極的に地域交流をしている。	地域との交流を積極的に図り、地域に根ざしたホームにするという理念を全職員で理解し、町内会を中心に積極的に地域交流を行い、利用者が住み慣れた地域に暮らし、自立に向けた支援が理念の下、実践されています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入。地域行事への参加。 日常の散歩の中でも地域の方との交流を図っている。今年度は町内会主催の日帰り旅行に参加をした。	自治会にも加入していて、町内会の諸行事の手伝いや祭り等への参加に加え、日々の回覧板回付などで繋がりを持ち、今年度は町内会主催の日帰り旅行にも参加しています。その他、地域店舗での買い物を通しても日常的に地域の一員として交流が行なわれています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会からの依頼で、認知症について、またグループホームでの介護についての講演を行った事例あり。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価についてだけでなく、介護保険法改定等についても説明をする等、ホームがどのような状況下にあるか情報提供している。また、会議で出た意見は積極的にホーム運営に導入している。	隔月に1回、二人の民生委員、横須賀市指導鑑査課職員、入居者家族代表、ホーム長の参加で、ホームの運営状況や最新の介護情報提供、今後の運営に関する思いや行事予定などを報告し、質問、意見、提案などを頂きながら話し合いを行っています。頂いた意見提案は積極的にホーム運営に反映するようにしています。また参加できなかった職員にも会議の内容を知らせ、ホームが地域と共にある事を認識できるようにしています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは連絡を密にし、協力関係を築く取組みを積極的に行っている。	市の高齢支援課とは都度連絡を取りあって問題の解決に繋がっています。また、研修などの連絡も頂き、計画的に参加をして交流を行い、協力関係構築に努めています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の心身の状態の安定を図る為にも、身体拘束は行わないという理念の下、日常のケアにあたっている。また高齢者虐待について各職員が自己チェックを実施している。玄関については夜間以外の施錠はしていない、夏期日中においては玄関の戸は開放したままである。	重要事項説明書・運営規定・契約書に「身体拘束その他利用者の行動を制限しない。緊急やむない場合も利用者または代理人に説明し、同意を得て対応をする」と謳い、身体拘束禁止に努めています。職員は、高齢者虐待について各自自己チェックを実施し、廃止に努めています。玄関については夜間以外の施錠はせず、夏期日中においては玄関の戸は開放する等、職員の見守りで維持し、入居者の安心と安らぎのある暮らしを実現しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加した者が中心になり職員研修を行っている。また、高齢者虐待について自己チェックを職員各自が行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加をし、それを元に職員研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時には十分な説明を行っている。相談窓口は随時相談可能にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族からの意見、要望に関しては積極的に受け入れ、可能な限り事業の運営に反映させている。	重要事項説明書13に受付窓口を記し、運営規定第14条に「利用者からの苦情に対し迅速、適切に対応する為必要な措置を講ずる」と記され、規定に沿った対応が行われています。日常的な利用者の苦情は、直接聴くように努め、ご家族とは気軽に意見が言える関係づくりを行っています。運営推進会議、面会来訪時には管理者や職員から生活状況の報告と共に、意見、苦情等も聞き、出来る範囲で運営の反映に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業運営に対する職員からの意見は可能な限り積極的に導入するよう管理職は心掛けている。管理職と職員の距離がよい意味で近く、そのことから職員の定着率が非常に高い。	管理者は、職員の意見や要望を聞く機会をカンファレンスや会議時に場を設け、必要時には個別面談なども行い、職員の意見や要望を聞くように努めています。また、管理者と職員間は日頃から気軽に話せる関係づくりが成され、意見や提案を聞いています。結果、職員の高定着率につながっています。職員からの事業運営に関する意見等は、運営に反映してサービスの質向上に繋がりたいと考えています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力、実績、能力を把握し、各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々のケアの実際と力量を把握し、各々に適した研修を働きかける等心掛けている。職員が研修に参加することで、個々のスキルアップにつながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護主任を中心に、グループホーム協議会の研修等に積極的に参加している。参加することで、ケアへの知識、技術が向上するだけでなく、同業者同士のネットワークも確立される。管理者は協議会の役員であり、ネットワークがより密なものとなった。		
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始の段階で困っていることなどの相談を受け、要望等に関しては積極的に受け入れるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様、家族からの相談には親身に対応している。相談窓口は原則24時間、365日対応出来るようになってきている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネがサービス計画表を作成するにあたり、どのようなサービスが一人一人の利用者に必要か見極めるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小規模ホームであることを活かし、職員、利用者皆が家族と思えるようなケアを提供している。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回利用者の状況を書面にて報告している。また毎年夏にご家族をホームに招き食事会を開いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中生活の中で手紙を書く等していた。また、各居室での宿泊、歓談、飲食については自由としている（但し、良識の範囲で）。	コミュニケーションのとれる方とは日頃の会話で、言葉が不自由な方には仕草などから把握に努め、家族の協力の下、出来るだけその方の意に沿う支援を心がけています。また、友人来訪時の歓迎や、手紙書き、投函の支援、電話の取り継ぎの他、各部屋での宿泊、歓談、飲食についても良識の範囲で自由とし、馴染みの関係が途切れないように支援しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小規模ホームであることを活かし、皆が家族と思えるような関係作りを心掛けている。利用者間で色々と人間関係等の問題もあるが、そこは職員が間に入り調整している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も賀状を送るなどホームの近況報告を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人一人のそれまでの人生を反映出来るような生活を心掛けている。利用者一人一人の希望も可能な限り実現できるよう努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握については、自らの思いが伝えられる方とは会話から伺い知り、そうでない方には「仕草や表情」から、家族等からの情報も加味しながら、利用者一人一人のそれまでの人生を反映出来るような生活を心掛け、個々のそれぞれの希望も可能な限り実現できるよう努力しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネのアセスメントを元に、利用者のそれまでの人生（生活歴）、サービス利用の経過について把握することに努め、ホーム内での日中生活に活かすよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議だけでなく、日常も管理職を中心に都度話し合いをし、利用者一人一人の状態把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理職、ケアマネが中心になって、会議や日常の中で、利用者が日々快適に過ごせるように話し合いの場を設け、その中から出た意見等を反映し、提供するサービスの向上を図っている。	介護計画の見直しは通常6ヶ月で短期は3ヶ月として、変化のある場合は都度の見直しを基準にしています。会議や日常の中で、利用者が日々快適に過ごせるように話し合いの場を設け、その中から出た意見等を反映し、管理者、ケアマネを中心に、ご家族の要望も聞いてカンファレンスで検討し、その方に見合った計画を作成しています。出来た介護計画は、本人、家族に確認を頂いてプランを実施しています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや、サービス向上の為の良い情報についてはサービス記録への記入だけでなく、職員ノート、口頭での伝達等行い。皆が認識し切るよう努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援や支援の多機能化に取り組んでいる。	日課、またはサービス計画に固執せず、個々のニーズに対応出来るよう、いい意味で臨機応変に対応したケアを心掛けている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人の暮らしを支えている地域資源への把握に努め、一人一人が快適な日常を送ることが出来るよう努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の受診については、ホームの提携医療機関に拘らずに利用者本人、ご家族の希望に沿った医療機関受診をするよう努めている。医療機関については、入居相談時に行っている。	医療機関については、入居相談時に行い、ホームの提携医療機関に拘らず、利用者本人やご家族の希望に沿った医療機関で受診をするようにしています。また、ホーム提携医は内科、歯科、整形外科であり、定期的に往診を受け、夫々の医師とは連携を図り、医療管理と適切な医療支援を行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員はなし。訪問看護については利用時には看護師との連絡を密にし、利用者の体調管理に努めた。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には面会に脚を運ぶ等して、入院中の利用者の状態把握、医療機関からの情報収集に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、重度化、終末期の話をご家族とし、ご家族、ご本人の希望に沿ったケアをするよう努めている。	重度化・終末期ケアについて、事業所の看取りに関する指針に基づき入居時に書面を下に家族に説明しています。医師または看護師が終末期と判断した時点で、看取り介護の希望の可否を伺い、家族・事業所責任者・医師と話し合いの下、希望に沿って同意書を交わします。ホームでは看取介護の実績も持っています。看取りに関する職員教育も実施しています。		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時のマニュアルを作成し、職員にはそれを周知するようしている。また救急法の研修へ参加した者がホーム内で研修を行う。また従来の職員会議の中でも緊急対応についての研修を実施している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時等の対応マニュアルを作成している。それを元に原則年3回消防訓練を実施している。また、運営推進会議の中で災害時の協力体制について依頼をしている。	重要事項説明書12・運営規定13条・契約書14条に防火管理責任者を定め非常災害に備えた消防計画、風水害、地震等に対処すべく防災計画の策定と定期的な避難訓練を年3回以上の実施を謳い、避難誘導路(町との連携の下に)・緊急連絡網の整備と共に規定に沿って4回/年、所轄消防署指導の下に避難訓練が実施されています。非常用備蓄では食料・水はもとより停電時の対応として乾電池・などの確保がおこなわれています。設備では各室に火災自動通報装置、に加えスプリンクラーも設置されています。防火管理責任者は法人代表が勤めています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針で利用者への介護は同視線で、また畏敬の念を持つよう提示し、職員一人一人がそのことを念頭において介護にあたっている。横須賀市主催のコミュニケーション研修に参加した者が中心となり、ホーム内で研修を実施している。	入居者を人生の先輩として畏敬の念を持って敬い、誇りやプライバシーを損ねることの無い言葉遣いと態度を心がけ、常に入居者の話は傾聴するよう努め、本人の意思決定を促すように心がけています。職員は横須賀市主催の研修やホーム内研修で研鑽を図っています。さらに、運営方針に沿って、利用者への介護は同視線で行うこと、また畏敬の念を持つよう提示し、職員一人一人がそのことを念頭において介護にあたっています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の希望を尊重し、日常生活を快適に送れるような環境づくりに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先、利用者一人一人がホームの主役という理念の元、一人一人の生活リズムを大切にサービス提供を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人一人の身だしなみには気を配り、毎日定刻に整髪、化粧等の整容を行っている。自立している方は自力で、介助が必要な方は職員が介助を行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人がその能力に応じて配膳、調理等の準備、食器洗浄、食器拭き等の片付けを行っている。食事については、職員も利用者と一緒に、時間に食べている。	利用者の好みも取り入れたホーム独自のメニューで、職員によって調理を行っています。利用者には調理下ごしらえや、盛り付け、配膳、下膳、食器拭きなど、出来る人に役割を持って食事作りに加わってもらっています。食事は個々に合わせた形態で提供し、職員と共に入居者のペースで楽しく食事を摂っています。誕生日や行事日には手作りケーキや特別食等で祝い、時には入居者の希望を取り入れて外食を行う等、利用者が楽しめる食事支援を行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重、既往症等に応じ、食事制限が必要な場合は、食事量調整を行う。また水分摂取量に於いては記録をし、状況把握に努めている。年間を通し、水分摂取量に十分注意をしている。水分摂取補助として、寒天等を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自立出来ている利用者も最後に職員が確認をし、口腔内の清潔に努めている。提携歯科との連携を密にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用の身体的に重度の方であってもトイレへ誘導をし、トイレで排泄をする支援をしている。	見守りと排泄チェック表を活用して、個々に応じたタイミングで声かけを行い、オムツ使用の身体的に重度の方であってもトイレへ誘導し、トイレで排泄をする支援をしています。ホームでは臭気に対する取り組みにも注力し、アロマを活用し、利用者のプライドを傷付けない配慮がされています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす副作用については十分に理解し、飲食物の工夫、水分摂取量の調整、日常生活の中で運動をするなど心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	以前は一人一人が毎日入浴していたが、利用者の体力等を配慮し、現在は隔日入浴を基本としているが、利用者一人一人のその時の状況に応じた対応をしている。	これまでは一人一人が毎日入浴していましたが、利用者の体力等を考慮し、現在は隔日入浴を基本としながらも、利用者一人一人のその時々状況に応じて入浴支援を行っています。季節のゆず湯、菖蒲湯なども取り入れて楽しみの工夫もしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方についてはおおまかな流れだけ決めており、それにとらわれず、一人一人のペースで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が服薬の目的、副作用等を理解し、十分に注意をして支援している。現在薬の変更についての申し送りは、サービス記録、職員ノート、口頭伝達と3段階で行っており、薬変更後の利用者には十分に注意をして支援している。また、薬局の居宅療養管理指導を利用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の力を活かせる様、また日常を楽しく過ごせるように、一人一人のそれまでの人生、経験を踏まえたアプローチを心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	原則戸外への散歩、外気浴は真夏、真冬以外は実施している。また季節折々に車を使用して外出をしている。町内のお祭り等に参加をする場合は町内会に協力要請をする。	天気の良い日は外気浴や職員とホーム近くの散歩コースに出掛けたり、時には買い物なども交えた、楽しみながらの外出支援が行われています。また、車を使用して少し遠出のドライブ(鎌倉の大仏見物など)にも出かけています。家族の対応で、外食・買い物等に出かける方もいます。町内行事の参加時には町内会の応援をいただいております。楽しんでます。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、介護度が進み自室にお金を所持している方は少ないが、可能な限り支援をしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者をご親族に手紙を書く等の支援を行っている。電話に関しては利用者より希望があった場合にはかけて頂いている。携帯電話を所有していた利用者もいたことがある。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月利用者とその月々の季節感を出せる様な掲示物を作成している。また、清潔保持、消臭、心身のリラクスの為にもアロマオイルを使用して毎日掃除をし、ホーム内を快適な空間にするよう心掛けている。	落ち着いた館内は清掃が行き届き、騒音も無く、消臭、心身のリラクスの為にもアロマオイルを使用して毎日掃除をし、ホーム内を快適な空間にするよう心掛けています。居間兼食堂は、採光も良く明るく、居間には、テーブルの他、ソファも置かれ、壁面にはイベントや入居風景写真と共に、入居者作品が季節を醸し、安らぎを感じさせ、寛げる工夫がされています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、それぞれお気に入りの場がある。気が合う利用者同士で、快適に過ごせる様な空間作りを心掛けている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具、写真など馴染みの物を持参して頂き、出来るだけ自宅にいた時と同じ様な空間で過ごして頂くような働きかけをしている。	居室にはエアコン・カーテン(防災)が備えられていて、各部屋には夫々の馴染みの整理筆筒や、椅子、鏡、家族写真、ぬいぐるみ等が持ち込まれ、夫々思いの設えで自宅同様の自分の部屋が設えられ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫がされています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は可能な限り、安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるよう、また認知症の緩和にもなるような構造にしている。			

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホームちゃばしら

作成日 平成27年3月2日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	緊急時の状況に全ての職員が対応出来るようになること	各職員のスキルアップ	内、外部研修へ積極的に参加する。各職員の意識の向上。	平成27年度
2	12	サービスの画一化防止の為に全職員が向上心を持って日々の業務に当たる。	職員一人一人が、常に向上心を持って日々の職務に当たられるような職場環境づくりを管理職は心がける。	各職員が「やりがい」を持って職務に当たられるような、職場環境・条件の整備。	平成27年度
3	19	利用者の状態悪化時などに関して、ご家族の支援が必要。	利用者の状態悪化時にご家族と協力して対応していく。	利用者の状態について、ご家族と連絡を密にする。	平成27年度

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。